

日	月	火	水	木	金	土
1 赤口 たつ	2 先勝 み	3 友引 うま	4 先負 ひつじ	5 仏滅 一粒万倍日 さる	6 大安 とり	7 赤口 いぬ
8 先勝 寒露 る	9 友引 スポーツの日	10 先負 うし	11 仏滅 とら	12 大安 う	13 赤口 たつ	14 先勝 み
15 先負 七五三(北海道) 一粒万倍日 三りんぼう うま	16 仏滅 ひつじ	17 大安 伊勢神宮神嘗祭	18 赤口 一粒万倍日 とり	19 先勝 いぬ	20 友引 る	21 先負 土用 ね
22 仏滅 うし	23 大安 とら	24 赤口 霜降 う	25 先勝 たつ	26 友引 み	27 先負 十三夜 一粒万倍日 三りんぼう うま	28 仏滅 ひつじ
29 大安 さる	30 赤口 一粒万倍日 とり	31 先勝 いぬ				

# 神無月

〔かなづき〕令和5年10月

古くから日本中の神々が出雲大社(島根県)に集まると信じられていたので、出雲以外の神社には神様がいないになってしまうという意味があります。

発行：北海道神社庁一區教化委員会

## 今月のことば

本を本として正にかへり、元を元として邪をすてられんことぞ、祖神の御心には叶はせ給ふべき

神皇正統記

祖神たる天照大神の御心とは何か。前述した正統記のことばによれば、正直・慈悲・知恵の三徳こそ、大神の御心を言い現わしたものだとする。それを北島親房は当時、伊勢の神道説では「元々本々」の教えに立つべきだとしている。この四字は神道五部書の一つなる倭姫命世紀に引かれた言葉で「元を元として元始に入り、本を本として本心に任ず」とあるに由ったものである。これを親房流に取捨したのが、前記の字句で、今流に言えば祖神たる天照大神の御心とは古典に示された原初に立ち返るにある。即ち人々はムスビの信仰に立ち、生成化育の信仰―人を生み、生かして伸ばし育てる神の力を信じ、これを此の世で実現された天照大神の御心即ち私(利己主義)を捨て、恩親心を似て、互いに容れ合う心に立ち帰るべきであると教えられている。この御心に立って、それに反する邪心を綺麗さっぱり捨て去ることが、「祖神の御心」だとするのである。

(神道百言 一般財団法人神道文化会編より抜粋)

本を本として正にかへり、元を元として邪をすてられんことぞ、祖神の御心には叶はせ給ふべき

神皇正統記

## 季節のまつり

千歳 十月十五日  
七五三祝

七五三の祝は、「七歳までは神の子」といわれた時代に、三歳の男女児が髪を伸ばしはじめ「髪置」、五歳の男児がはじめて袴を着ける「袴着」、七歳の女児が大人の帯を着けはじめ「帯解」の儀式に由来します。子供の心身の成長の節目にあたる縁起の良い奇数の歳に、氏神様にお参りし、無事成長したことへの感謝とこれからのご加護をお願いします。

## 神嘗 十月十七日 伊勢神宮神嘗祭

天皇陛下が新穀を伊勢の神宮に献る一年中で最も重要な祭りです。外宮では十月十五日の夕と十六日の朝に由貴大御饗を供進し、十七日は勅使が参向します。内宮では、十月十六日の夕と十七日の朝に由貴大御饗を供進し、十七日は勅使が参向します。神宮では六月・十二月の月次祭と神嘗祭の三祭を三節祭と呼び、最も大切に祭ります。

## 二十四節気

【寒露 かんろ】…八日

旧暦九月戌の月の正節で、このころになると、五穀の収穫もたけなわで、農家ではこのほか繁忙を極めますが、山野には晩秋の色彩が濃く、朝晩は肌がそぞろ寒気を感じはじめるようになります。寒露とは、晩秋から初冬にかけて野草に宿る露のことをさします。

## 六曜・選日

【六曜】…諸事急ぐことによし、午後よりわるし  
【先勝】…朝夕よし、正午わるし、葬式を忌む  
【先負】…諸事静かなることによし、午後大吉  
【仏滅】…万事凶、思えば長びくおそれあり  
【大安】…何事をするにも吉の日、大吉日  
【赤口】…諸事油断すべからず、正午のみ吉  
【選日】…諸事吉  
【三隣亡】…三隣亡日、普請始め、棟上大吉日  
【一粒万倍日】…出資・投資・購入、新規事業開始、婚姻は吉、借りの、離別は凶

## 七十二候(10月)

霜降 初候・霜始降(しもはじめてふる)  
次候・雁が北から渡ってくる(かりがきたる)  
末候・菊の花が咲き始める(きくはなははな)

寒露 初候・鴻雁来(こうがんきたる)  
次候・雀が北から渡ってくる(すずめがきたる)  
末候・霜が降り始める(しもはじめてふる)

※七十二候とは二十四節気各節気をさらに3つに分け、一年を七十二に分けたものをいいます。季節の移ろい、気象や動植物の成長・行動などに託して表現したものです。

## かみありづき 神在月とは?

十月は神無月で、出雲は神々が集まられるので神在(かみあり)月だという信仰が今もあります。またカンナツキは神を祭る『神の月』だとか、神酒醸造のための「醸成月(かみなしづき)」だという説等は、いづれも篤い信仰を物語ります。そして刈上祝いに直結する秋祭りこそは、年間最大の賑わいを呈します。

## じんぎどうとく 仁義道徳

人として守るべき正しい道。またその道にかなう生き方をすること。



コスモス

参考文献 『日本人数のしきたり』飯倉晴武(青春出版社) 『くらしと祭り百話』小野迪夫(神社新報社)

## 「十三夜」…十月二十七日

旧暦の九月十三日、今年十月二十七日の月見を「十三夜」といいます。十五夜を中秋の名月と呼ぶのに対し、十三夜は秋の収穫を祝うという意味もあり、豆や栗などの作物を供えましたので、「後の月」「豆月」「栗名月」ともいいます。

旧暦の毎月十三日の夜を「十三夜」といっていましたが、旧暦九月の十三夜は、十五夜について美しい月とされ、宮中では、平安時代から宴を催すなど月を鑑賞する風習がありました。十五夜は中国から伝わったものですが、十三夜は日本古来の風習で、秋の収穫祭のひとつではないかといわれています。

一般に十五夜に月見をしたら、必ず同じ場所でも十三夜にも月見をするものもされてきました。これは十五夜だけ鑑賞するのは「片月見」といって嫌う風習があったからです。

## いぬ 安産祈願 10月の戌の日

7日(土)  
19日(木)  
31日(火)

\*戌の日以外でも安産祈願のご奉仕しております。神社にお問い合わせください。

祝祭日には国旗を掲げましょう